

アーヘン工科大学サマースクール レポート

生命工学科三年

1 プログラムの目的

German Engineering, Language and Culture

ドイツの工学、言語、文化を学ぶ。

2 日程

2017/8/13~2017/9/2

3 プログラムの概要

平日の午前はドイツ語の授業、午後は英語で理工系の授業を受けた。

休日は自由時間で、観光や自習をした。

4 活動の内容

十二名の日本人参加者がいた。そのうち東工大生は二名で他はすべて慶応理工の学生であった。学年は二年生が六人で、一年生が三人、三年生が三人であった。日本人学生1 or 2名に対し一人の現地学生のバディがいたが、アーヘン工科大学がテスト期間なことであつてバディと沢山交流している人は少なかった。

・ドイツ語の授業

ドイツ語ネイティブの先生による会話重視の授業。すべてドイツ語で行われた。日常会話を練習したり、ドイツ文化に関するテキストを読んだ。最終日は午後もドイツ語の授業で、ヨーロッパの国を一つ選びその国の基本情報、文化、観光地などをドイツ語で一人10分でプレゼンした。ドイツ語は一年生の頃から積極的に勉強してきたのでそれほど苦労はしなかった。

・理工系の授業

機械工学、材料工学、化学、物理学、生化学の授業を受けた。物理学では振り子を用いた重力加速度の測定、生化学では培養条件を変えた大腸菌の培養速度の比較実験をした。どちらも実験結果を英語でプレゼンするなど大変だった。他は座学のみであったが、長時間に及ぶ英語のリスニングが苦労した。また、研究室も見学した。東工大と比べると広々としていて作業しやすそうであった。さらにドイツでは博士課程からは大学から給料を貰いながら研究員として働けると聞いて、日本よりも断然条件がよいと感じた。

・休日

すべての休日、時間を余すことなく同行した日本人、そして若干名の現地バディーと出かけた。最初は滞在地アーヘンを観光した。アーヘンには786年に建設が着手されたヨーロッパ初の世界遺産であるアーヘン大聖堂がある。そこは昔長い間神聖ローマ帝国の皇帝たちの戴冠式が行われた場所であり、キリスト教の聖地としてヨーロッパでは名の知れた地である。

次に訪れたのは、アーヘンから近いデュッセルドルフ、そして旧西ドイツの首都であったボンである。ベートーヴェンの生家やライン川を見た。

アーヘンはベルギー、オランダと接しているのでブリュッセルとマーストリヒトに行った。ベルギーはフランス語でオランダはオランダ語だったため文字が読めなかったが英語でどうにか対応した。

またドイツの大手鉄鋼会社であるティッセンクルップ社の製鉄工場に見学に行き、ドイツの科学力を目の当たりにした。

5 自身の専門性と本プログラムがどのようにしてグローバル理工人育成コースで育成を目指す能力の育成に結びついたか、または、今後そのような能力育成に向けてどのような活動を行っていくか。

ドイツでは高校を卒業すると一人暮らしをするのが普通であるため、体格の差はあれど、ドイツの大学生は自立してると感じた。自分も一人暮らしをして自立しようと思った。またアーヘン工科大学には世界中から学生が集まっていたが、日本人が一番英語ができていないと感じた。会話力重視で英語力を上げなければ世界に出ていけないと、大きく焦りを感じた。さらに、世界の学生は自分の意見をはっきりと表明するという印象を受けた。自分はずっとそのタイプであり、日本ではやや目立つ感じなので、東工大も発言が活発になればよいのになと感じた。

英語力は TOEIC のリスニングの勉強で向上を図っていきたい。

6 その他、所感

ドイツの町では、お店によくテラス席があり、そこで人々が歓談している様子がいたるところで見受けられる。国民性としておしゃべり好きで、みんな楽しそうだった。

乾杯の時には必ず相手と目を合わせるといった風習もあって、日本よりも人と人の距離が近いよい国だなと思った。

無料の公衆トイレがなく、基本有料ということくらいしか不便さがなかった。有料トイレなので治安が保たれるなどの利点もあり合理的なシステムで、不便というか単にシステムの違いと言うのが正しいのだが。

ご飯はおいしくて一切問題がなかった。なので日本に帰りたくなかった。

日本に帰ると、日本語ネイティブと日本語でなに不自由なく意思疎通できることに感動し

た。それと同時にいかに我々の日常語には省略や口語が含まれているか気づいて、日常会話というのは言語学習において非常に高位なことだと認識した。そのため長期留学のハードルの高さも感じてしまったが、ドイツは素晴らしい国であったので、可能な限り会話力を高めて前向きに検討していきたいと思った。

写真↓アーヘンの町、アーヘン大聖堂

Nobis はクッキーなどのお土産が買えるチェーン店。Aacher Printen はアーヘン発祥のクッキーのようなお菓子で、定番のお土産。

